

K O U R I N



平成16年度年回繰出し

- 1周忌 平成15年に亡くなられた方
- 3回忌 平成14年
- 7回忌 平成10年
- 13回忌 平成4年
- 17回忌 昭和63年
- 25回忌 昭和55年
- 33回忌 昭和47年
- 50回忌 昭和30年

詳細は本堂に掲示しています。

法要（法事）の準備

法要を行う時はまず始めに、行う場所を決めますが、たいてい自宅か菩提寺で行われます。本来なら日取りは故人の祥月命日にしますが、親戚等の集まりやすい休日に行われることが多く、その場合は祥月命日より早い日に決めます。土曜、日曜、祭日に行う場合は、2-3カ月前に連絡をし、住職と相談して日時を決めます。場所、日時が決まったら案内状を出します。

回向ということ

人間は社会の中に生まれさせていただいた、私達は「生かされている」という気持ちにめざめると「おかげさま」と思える。目に見えない何らかの力（法則、約束ごと）に見守られているから神仏（力）を想う心がめざめる。全ての人は同じ力のなかで育まれている。人は皆仲間（友達、平等）である。当然いのちの親（佛）と不可思議な力（法）と仲間達（僧）に依っている世界なればこそ三帰依ということが大切になる。不可思議な力が途切れないように、永遠であるようにという気持ちを回向力としなければならない。この回向力を我等人間に先祖と子孫に及ぼすという行為を回向といい、信じる神仏にすぎり、そのことば（経）に功德を求めるを回向という。終わりなきとは、心に死がないという事実、一人としてこれを識らぬ人はいない。

ご挨拶

住職 堤 俊翁

新しい年を迎えました。気候も文字どおり春のようなお正月ですが、皆様方におかれましてはご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年もいろいろなことがありましたが、ことし、気がかりなことは自衛隊のイラク派遣でしょう。北朝鮮問題もありますが、復興の為とはいえ、自衛隊を派遣することはどういう影響をおよぼすのか心配でなりません。平和と平等の佛教思想からすると、絶対中立の平和主義を貫けないものかと思えます。今年四月に五重相伝会を開き佛教の教え、念佛の教えを身をもって体験して頂く機会を持ちます。

平成二年から十四年ぶりです。是非この機会にご縁を結んでいただきますようお勧めいたします。

合掌

内容

- ・成道会（じょうどうえ）
- ・法然上人の大師号、諡号
- ・御忌法要について
- ・五重相伝のすすめ
- ・平成十六年回繰出し表

香林山 冷智院 無量寺

〒830-0044 福岡県久留米市本町8-4

TEL 0942(32)3010 FAX 0942(32)2701

機関紙 **こうりん**

ホームページ URL <http://www.muryoji.net>

平成16年1月1日 第32号

E-mail info@muryoji.net



いよいよ最後の第五重は正伝法と申しまして要偈道場、密室道場の厳粛な儀式を通して伝えられます。

(五) 第五重
初重より四重までは第の字はつけません。この段階では、五重相伝の一番大切な、真髓を授けられますので第五重といえます。これにはお巻物となる書物はありません。書いて言えば、中国の曇鸞大師の『往生論註』によるとのことですが、口授心伝、即ち伝灯師の口からお同行の人々の心に直接に伝えられ

るので。その内容については、ここでは申せません。皆さんが、五重相伝に入り、真面目に前行を行い、四重までの教えをよく理解された上で、はじめて授けられるものです。ただ、阿弥陀さまのお顔が心に浮かぶという名体不離のお念仏の申し方を、五重相伝をお受けになった証として授けられるのであります。

なおこの五重相伝会中に特別の行事として、大方のお寺では、剃度式と懺悔道場が別開されます。剃度式は、頭髪に剃刀をあてて、仏のみ弟子にしていたたく儀式です。お寺の小僧さんや尼僧さんの場合は得度式といえます。内容は同じことですが、実

際に頭髪を剃るかそれないかの違いだけです。剃りたきは、心の中の乱れ髪、頭の髪は、とにもかくにも姿形は元のままであつても、この儀式によつて仏弟子としての清らかな心を持つて生活をさせていただくということ。ただこの式の終わりに、み仏さまに一つのお誓いをします。今日からは必ずお念仏を毎日かかさず申しますという、これを日課念仏と申すのであります。が、二、三分もあれば申せるだけのわずかな教えを授けられます。これによつて生涯お念仏の信者になつていただくのであります。懺悔道場は、要偈道場の御伝法の中にこの言葉が出てきますので、昔は一部の地方を除い

ては別には行われなかつたのですが、近年は非常に感銘深い行事であるというので多くのお寺で別開されるようになってきました。暗黒の道場で行われますので、暗黒道場ともいいます。本来は日没後に一切の灯火を消して真の暗闇となつた道場に一人ずつ名前を呼ばれてはいると、中には門中のお寺さまが待っていてくださつて、親切に手引きをして所定の場所に座らせてくださいます。ちよつとの先も見えない道場で阿弥陀さまと二人きりになつたつもりで、自分の過去に犯した一切の罪過を懺悔して許しを請う儀式です。男の人も女の人も、老人も青年も、この一瞬には本当に過去の自分を思つて涙の出

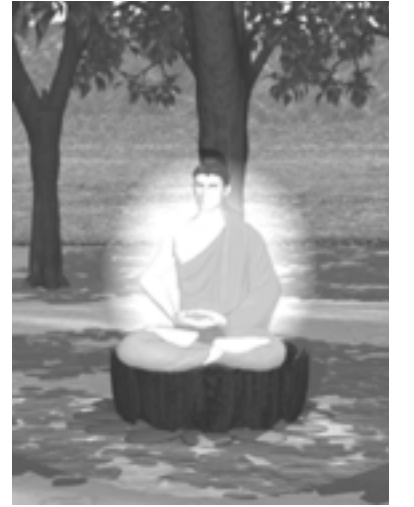
るような思いをするのです。やがて闇黒の道場は一転して光明輝くお浄土の有り様となり、そこに生まれ変わる自らの姿を感得させていたのだのです。この懺悔の儀式を終えた清浄の心を以つて、第五重の正伝法に望ませていただくのであります。

むすび
わずか数日間の行事であります。これに加することによつて、仏教の真髓、浄土宗のゆるぎなき信仰を得ることが出来ます。そしてこの世も後の世も、お念仏の中に、真の安楽の生活を営むことが出来るのであります。よき機会があれば是非ご参加下さいませうおすすすめいたします。

成道会 (じょうどうえ)

(おさとりの日) (12月8日)

12月8日。人間として生まれ、人間の幸福について悩み続けられたお釈迦さまは35歳のこの日、菩提樹の下でついに「お悟り」を開かれ仏陀(ぶつだ)(覚者)となられた。この尊い成道の日を記念して法会を「成道会(じょうどうえ)」といひます。



各寺院では「おさとり」を講ずる法要や、行事がおこなわれます。なに不自由のない生活を送っていたお釈迦さまが、人の世が老病死の苦に満ちていることを見抜き、そうした苦から脱出する道を求めて出家を決意したのが29歳のことで。人間として生まれ、人間の幸福について悩み続けられたお釈迦(しゃか)さまは、肉体を痛めつける苦行をすることで苦からの脱出の道を求めましたが、やがて、苦行では苦の

問題を解決することはできないと判断し、それを中止しました。そして、やつれた体を村娘の供養した乳粥でいやしたお釈迦さまは、大きな菩提樹(ぼだいじゅ)の下で瞑想(めいそう)して、ついに悟りを開かれ、仏陀(ぶつだ)となられました。

仏教の教えをあらわす3つの言葉

諸行無常 (しよぎょうむじょう)

あらゆるものは常に変化している。

諸法無我 (しよほうむが)

すべては他のものとの関係によって成り立っているものであり、諸行無常の変化も、周囲との関係によって起こる。他から独立して存在するものはない。

涅槃寂静 (ねはんじゃくじょう)

諸行無常・諸法無我の真理を深く自覚すれば、何事にも動じない平安な境地に達する。

お釈迦さまは、このようなことをさと、いかにすれば、平安なところを持って生きることが出来るのかを、「縁起(えんぎ)」や「四諦(したい)」「八正道(はっしょうどう)」「中道(ちゅうどう)」という教えで多くの弟子に伝えたのです。

難しいといわれる佛教ですが、お釈迦さまは、あらゆる人にやさしい言葉で、教えを説かれています。その教えの一つ一つが、各宗派の教えにもなっています。

アジアの精神文化に大きな影響をあたえた、お釈迦さまの教えです。

日本人の生活の中にも深くかかわっています。

浄土宗ホームページより



法然上人の大師号・謚号

大師号とは、徳の高い高僧に朝廷から贈られる名のことです。

法然上人は生前の徳を讃えられて、滅後480年余に朝廷より賜られた大師号は、500年遠忌の行なわれた宝永8年以降、50年ごとに加謚される習わしとなり、現在までに下記のように賜られている。

(天台宗の開祖「伝教大師」(最澄)、真言宗の開祖「弘法大師」(空海)も有名です。)

大師号	天皇	年号	西暦	回忌
円光(えんこう)大師	東山天皇	元禄10年	1697	
東漸(とうぜん)大師	中御門天皇	宝永8年	1711	500回忌
慧成(えいじょう)大師	桃園天皇	宝歴11年	1761	550回忌
弘覚(こうかく)大師	光格天皇	文化8年	1811	600回忌
慈教(じきょう)大師	孝明天皇	万延2年	1861	650回忌
明照(めいしょう)大師	明治天皇	明治44年	1911	700回忌
和順(わじゅん)大師	昭和天皇	昭和36年	1961	750回忌

謚号	天皇	年号	西暦	年齢、滅後年
慧光菩薩	後鳥羽天皇	文治4年	1188	56歳
華頂尊者	四条天皇	嘉禎3年	1237	滅後25年
通明国師	後嵯峨天皇	寛元2年	1244	滅後33年
天下上人無極道	後花園天皇			滅後230余年
光照大士	後奈良天皇	天文8年	1539	滅後328年

大師号

謚号

五重のすすめ

(三) 三重『領解末代念仏授手印鈔』

三代記主禪師良忠上人の御作です。

これは二重のお巻物の精神をこういう風に受け取らせていただきましたという御本です。から、一々の内容は申しませんが、二重の一番肝要なことは、すべてお念仏の一行に帰する、すなわち五種正行も、五念門も、三心も、四修も、三種行儀もすべて南無阿弥陀仏と領解させていただきましたという御本です。二代さまは、良忠上人のこの『領解鈔』をご覧、大変お喜びになりました。

(四) 四重『決答末代念仏授手印疑問鈔』

同じく良忠上人の御作であります。

五重相伝を受けて信仰にはいった人が後で必ず起こすであろう疑問に対して、あらかじめ答えておかれる書物であります。在阿という病弱の青年が『末代念仏授手印』

印』を手本として、お念仏を申すうちに、この書物に対して八十余力条の疑問を持ちました。一番細かく言っても五十五の法数しか説かれていないのに、八十余力条の疑問というのは、余程このお書



物に対して真剣に研究をされたということが想像されます。これに對して一々懇切丁寧に答えになりました。良忠上人五十九歳の時のことでもあります。ただし五重相伝ではこの中の一力条だけを取り

上げてお伝えいたしました。

人間の性は悲しいもので、五重相伝でお念仏の有り難さはよくよく教えられながらも、世間普通の生活にもどってみれば、時には欲望の心も、腹立ちの心も、愚痴の心も起こってくる。しかもそれが信仰の心よりも強く起こる。一体このようなことで、私の信仰は果たしていいのでしょうか

という疑問です。それに対しては、次のように教えられています。三毒煩惱のような悪い心は、生まれながらにして今日まで持ち続けてきたものだから強いのは当たり前です。それに比べて信仰の心は、この年になってから漸く起こしたものだからこれま

た弱いのが当たりまえです。

このような情けない人間だからこそ、阿弥陀さまのお他力をお願いするのですよ。自分で三毒煩惱をおさえられるような力があれば、み仏さまのお力にすがらなくとも、自らの力で悟りを開けばよいからこそ阿弥陀さまのお力をお願いする必要があります。自分を深く深く反省しきつた所に、阿弥陀さまのご救済のみ手がひしひしと力強く感じられて来るのです。

このことを唐の善導大師の『観経疏』の中に説かれた二河白道の譬え話を引いてわかりやすく教えられるのであります。これまでの修行やお話は前行といえます。



仏像を見るだけでも満足の無量寺。



勢至菩薩

Masthama-prapta Bodhisattva

勢至菩薩Masthama-prapta Bodhisattva

向かって左側に勢至菩薩が配置されており、阿弥陀如来の智慧と徳を表し、その光明は人々の苦悩を清め流すものです。



Avalokiteshvara Bodhisattva

観音菩薩

観音菩薩Avalokiteshvara Bodhisattva

同じく右側に観音菩薩が祭られています。観音菩薩は阿弥陀如来の慈悲の徳を表します。子育て観音、慈母観音、救世観音など、さまざまな姿に形を変える変幻自在の菩薩様です。

上記の写真は、無量寺本堂の本尊、阿弥陀如来様の両脇にまつられている 観音菩薩様と勢至菩薩様です。

阿弥陀三尊といいまして、お釈迦様には普賢菩薩様と文殊菩薩様、薬師如来様には日光菩薩様、月光菩薩様と形が決まっています。

無量寺のホームページではこのように詳しく佛像のことなども掲載して、いつでも拝むことができるようになっています。

作ってみよう精進料理

《かぶらふろふき》



材料 4個分

- かぶ中 4 個
- 赤味噌... ..300グラム
- 酒 300cc
- 砂糖・..... ..200グラム
- みりん100cc
- ゴマ油..... .. 少々

【作り方】

鍋に赤味噌、酒、砂糖、みりん、ゴマ油を入れよく混ぜ合わせる。
 火にかけ、こげないようによく練り上げる。
 かぶは皮をむき、昆布出汁でやわらかくなるまで煮る。
 器に盛り、味噌のタレをかけて出来上がり。

料理長のひとこと

冬の味覚は意外と多いものです。海の幸でも山の幸でも、寒さがつのるにしたがって美味しさを増す食材は、たくさんあります。なんとなくちぢこまってしまうこの季節、そんな食材を上手に使ったお料理でお口をほころばせ、一緒に体も心も温めましょう。

さて、その冬の味覚の代表選手にあげられるのが「かぶ」。栄養価が高く、カルシウム、リン、ビタミンCを多く含み、とくに葉はビタミンAが豊富。

地方ごとにさまざまな種類のかぶがありますが、ふろふきには聖護院かぶらや近江かぶらなどが適しているでしょう。

そうそう、葉がイキイキしていて、表面がなめらか、つややかなものを選ぶように心がけてくださいね。
 (浄土宗かるな)より